

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 相模原市立谷口台小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 3 「 よくよく見れば、あの場所に 」 No. 8 「 わたしたちのまちに言葉の贈りもの 」 No. 11 「 地域景観プランナーになろう 」
単元名 (全 時間)	Feel度Walkで再発見～人・もの・こととつながろう～ (全70時間)
学習のねらい	いつも見ているものも、見方を変えると「違った面白さがある」ことを見つける『Feel度Walk』を通して、自分だけのこだわりが詰まった『知図』を作成する。 『Feel度Walk』は地域の人や保育園児など、様々な世代の人と行うことで、より魅力が広まると考えている。 作成した知図を多くの人に見てもらおう知図展を校内や公民館など様々な場所で開催することで、『Feel度Walk』を通して再発見したまちの魅力やおもしろさを伝える。
学習内容	1 「まちを歩き、『おもしろい』を集める」イベントを行っているゲストティーチャーのKさんと共に、「おもしろいものは見えていないだけで、身近にある」を合い言葉に、「Feel 度 Walk」と題して学校の中で見つけた気になるものやおもしろいものを写真に撮り、クラスの中で伝え合い、共有する。地域へ何度も出かけた。その中で見つけた気になるものや不思議なものを写真に撮り、クラスで伝え合って共有してきた 2 「Feel度Walk」を地域へ広げ、公園や学校の周り、さらに雨の日など、様々な視点からまちを見るようにする。 3 他学年の児童や地域の人、保育園児など、色々な人と「Feel度Walk」を行い、魅力を広めるようにする。 4 学校や公民館で「知図展」を開き、自分たちが学んできたこと（まちにあるおもしろいものなど）を紹介する。
参考資料 準備品 実施場所等	実施場所：谷口台小学校、大野南公民館

学習の流れ

単元計画（70時間）

小単元実施計画	□課題 ・ 探究的な学習活動 ◆まとめと次への見通し	【学びどころ】 ★人との関わり ☆教科との関連
小単元① 5・6・7月	□「Feel度Walkってなんだろう？」 ・相模原でFeel度Walkを広めようと活	・Feel度Walkを教えてくれたKさんのすごさを実感するとともに、

<p>15時間</p>	<p>動しているゲストティーチャーKさんから話を聞き、実際に校内をFeel度Walkして見付けてきたものをシェアする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外に行く計画を立てる。 ・中央公園、駅周辺、銀座商店街をFeel度Walkして見つけたものをシェアしよう。 ・雨Feel度Walkをして晴れと比べよう。 ・これまで使った見方を整理して、次に使いたい見方を考え、試しに行く。 ・Feel度Walkの良さについて話し合う。 <p>◆「Feel度Walkは、おもしろいものを発見・再発見したり、いつもの道が新世界に感じたりすることができる良さがあるね。この良さをたくさんの人に知ってほしいな」</p>	<p>自分達もFeel度Walkerになりイベントを通して地域の人にFeel度Walkの魅力を伝えていくというめあてを設定する。</p> <p>★ところジスト ★地域の人 ☆理科「天気の変化」 ☆道徳「駅前広場はだれのもの」</p>
<p>小単元② 8・9・10月 15時間</p>	<p>□「Feel度Walkの良さを知ってもらうために自分達にできることは何だろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果から、校内児童や保護者の実態を分析する。 ・これまでの活動から分かったFeel度Walkの魅力をどのように伝えていくのが良いか、分析結果やKさんの活動、自分達の目標や目的を基に話し合う。 ・中央区ブラ散歩の話や伊藤さんの話を聞いたり、他市のまち歩きイベントの情報を集めたりする。 ・Feel度Walkイベントを企画する。 →目的は？対象は？コンセプトは？内容は？ルートは？どれくらい知ってもらう？グッズ作る？集金する？ ・プレFeel度Walkを行う→保護者とモデルコースを歩き感想を聞く。 ・参加者の声等を基に、ルートや運営方法を見直す。 ・南区役所の方やゲストティーチャーに評価してもらい、繰り返し活動を改善した 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ魅力を発信しようとしているのか、相手（参加者）にどうなってほしいのか、なぜFeel度Walkerになろうと思ったのか伊藤さんにインタビューをする。 ・自分達の見方を増やすための活動として、繰り返し地域に出て、自分を見方を増やしたり見つけたものを知図にまとめたりする。 ・目指すFeel度Walk像（コンセプト）を話し合えるよう、行政の方やゲストティーチャーの思いを聞く。 ・プレ散歩を行い、競うのではなく、多様な人々が運動することができ、ルート計画や歩きながらの会話によって人々のつながりが生まれることを実感できるようにする。 <p>★中央区・南区地域振興課？</p>

	<p>り、イベントマニュアルを作成したりする。</p> <p>◆「モデルコースが決まった。次は地域の人に呼びかけて Feel 度 Walk 1 回目を実施したい」</p>	<p>★K さん★地域の人</p> <p>☆国語「目的に応じて引用するとき」 「みんなが過ごしやすい町へ」「きいてきいてきいてみよう」</p> <p>☆道徳「ありがとう上手に」</p>
<p>小単元④ 8・9・10 月 1 5 時間</p>	<p>□「自分たちが考えたコースは、魅力が伝わるだろうか？」</p> <p>• 第 1 回 Feel 度 Walk の準備・運営をする。</p> <p>• 参加者のアンケートと自分達の達成度を比べ、目的がどれくらい達成できたかを話し合う。</p> <p>• 良かったところと課題を分析しよう。</p> <p>◆「第 1 回は、あまり良さを実感してもらえなかった。課題を活かして 2 回目の Feel 度 Walk をしたい」</p>	<p>• 参加者の表情や様子を記録し、客観的に自分達の考えた、Feel 度 Walk はどうだったのか考えられるようにする。</p> <p>• 目的に振り返り自分達の活動が本当に Feel 度 Walk の良さを広めることができているのか確認する時間をつくる。</p> <p>★中央区・南区地域振興課</p> <p>★K さん★地域の人</p> <p>☆国語 「よりよい学校生活のために」</p> <p>☆算数「平均」「割合」</p> <p>☆道徳「折り紙大使」</p>
<p>小単元⑤ 11・12・ 1 月 1 5 時間</p>	<p>□「さらに Feel 度 Walk の良さを味わってもらうためには、どんな改善工夫がみつようだろうか」</p> <p>• 南区役所の方やゲストティーチャーの話を聞き、Feel 度 Walk + 何があれば効果が高まるのか考える</p> <p>• 第 2 回 Feel 度 Walk の準備・運営をする。</p> <p>• 参加者のアンケートと自分達の達成度を比べ、目的がどれくらい達成できたかを話し合う。</p> <p>◆「1 回目より 2 回目の方が Feel 度 Walk の良さを味わってもらえたね。Feel 度 Walk の魅力が広まった。活動を通して、いつもの毎日がちょっとおもしろくなったり、地域の人がさらに相模大野を好きになってもらったりしたからすごく嬉しい。」</p>	<p>• 景観を楽しむ、会話を楽しむ、自然を楽しむなど、様々な楽しみ方をコースごとに取り入れ、相手のニーズを考えながら、ルートや運営方法を見直す。</p> <p>• 繰り返し活動を改善したり、イベントマニュアルを作成したりする。</p> <p>★中央区・南区地域振興課？</p> <p>★K さん★地域の人</p> <p>☆国語「グラフや表を用いて書こう」</p> <p>☆算数「速さ」</p> <p>☆道徳「心のレシーブ」</p>

小単元⑥ 2・3月 10時間	□「自分達の成長等、これまでの学習を振り返る」 ・これまでの活動や Feel 度 Walk の良さをまとめたいな。 ・知函展を開いて、自分達の成長を発表したいな。 ◆「散歩で相模大野の魅力を広めることができた。」	・Feel 度 Walk をする中で、様々な見方を使うことで、改めて「相模大野」の魅力を見出し、人との「つながり」を未来へとつなげる責任があることに気付けるようにする。 ☆国語 「提案しよう、言葉とわたしたち」 ☆道徳「バトンをつなげ」
----------------------	---	---

② 事業実施報告書詳細

9月申請以降の学習について

学校名 相模原市立谷口台小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4時間	谷口台小学校	2年生、3年生とFeel度Walkを行い、見方を変えたとおもしろいという経験を共有する		児童の感想より <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>今日の総合で、3-2とFeel度Walkをしたときのシェアをした。ほくが見つけたのは、ライトについていた公園課のシールだ。3年生は推理をしてさらに考えていた。2年生は不思議なものをたくさん見つけている印象があった。次は保育園の子とやる。2年生や3年生よりも年がちがうので、Feel度Walkのおもしろさや相模大野の良さが伝わるか分からない。みんなで良さを伝えられるように、がんばりたい。</p> </div>
4時間	ひよこ第3保育園	保育園の園庭で一緒にFeel度Walkを行い、見方を変えたとおもしろいという経験を共有する。その後、中央公園へ移動して一緒にFeel度Walkを行う。		

			<p>大切なのは、「なんてだろう?」「おもしろいな!」と思うこと。</p> 	
	<p>中央公園</p>	<p>中央公園で6年生、保育園児、地域の人と一緒にFeel度Walkを行った。</p>		

	大野南公民館	大野南公民館の公民館まつりの中で知図展を開催し、より多くの人に「知図」を見てもらうようにした。	   	<p>児童の感想より</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>私は、今日のFWでたくさんの学びがありました。1つ目は大人の方と一緒にやるときに自分たちと見方がちがったということです。大人の方たちは結構広い視点で見ていたけど、6-3は自分たちと似ていて、1つの物に集中して書いていたから、年代によって見方がちがうということが分かりました。あと、地域の人やタウンニュースの方の紙(知図)を見たら、木だけに集中して書いている人がいて、また新しいかき方を学べました。そして、前に言っていた「自分も楽しむ」という目標は達成できたと思う。</p> </div>
4時間	谷口台小学校	学校の中で知図展を開催し、より多くの人に「知図」を見てもらうようにした。また、見に来た人たちに自分たちの学習の成果を伝えた。また、他学年の児童だけでなく、これまで学習でお世話になった人や、保護者にも来てもらった。	<div style="background-color: #00aaff; color: white; padding: 5px;"> <p>Feel 度 Walkはね・・・</p> <p>先回目「知図」？</p> <p>どうして3分で歩けるところを30分かけて歩くのが楽しいんだろう？</p> <p>Feel度Walkは不思議を探しながらじっくり歩くのが醍醐味なんですよ。だから、30分かけて歩くのが楽しいんですよ。</p> </div> <p>知図は相模大野や学校だけではなく、下の知図は中華街や海でつくったものです。お出かけしたときにも自分でつくったんだね。</p>  	

			<div data-bbox="821 241 1364 548">  <p>カラフルルームの壁一面の知図、知図、知図…</p> <p>子どもたちが見つけた「？」や「！」がいっぱい貼られています。</p> </div> <div data-bbox="821 560 1364 862">  <p>同じクラスの友だちの知図だって、見ていると夢中になるね。</p> <p>詳しい説明は直接伝えたり、録画したものを流したり、工夫がたくさんありました。</p> </div>
	<p>谷口台小学校</p>	<p>一年間の学習のまとめとして、Feel度Walk報告会を校内で実施した。</p>	<div data-bbox="810 913 1114 1137">  </div> <p>始めの頃は、「Feel度Walkってなんだろう？」「やってみたい！」と言っていた子ども達は、3学期には、「Feel度Walkを地域の人とできて嬉しい」「知図展でさらに相模大野を好きになってもらえた」と達成感を感じるほど、経験や自信を得ていた。</p>

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>宿泊体験学習に言ったときに学年全員でFeel度Walkを実施したり、他学年や保育園児、地域の方など様々な年齢の人とFeel度Walkを実施したりしながら、自分たちが感じている活動の面白さや有意義さを伝える活動を通して、自分たちが活動の意義をより深く感じるようにした。</p> <p>一年間の活動の終末に「知函展」を開催し、自分たちが学んできたことを伝える場を設定した。</p> <p>また、ものに対して色々な見方ができることを学ぶ経験から、友だちの意見を肯定的に受け止め、違いを認める寛容さを身に付けるように指導に活かした。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・ 時数の確保・ テストティーチャーとの日程調整・ 共に活動を行う学年、地域の人や園との日程調整
<p>(3) 児童の反応</p> <p>学校だけの活動とならず、家族と出かけた際にFeel度Walkをして知函を作成するなど、学習そのものへの意欲が高まった。また、人は見たものに対して感じ方が異なること、色々な感じ方があっていいこと等を実感するようになった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>子どもたちと同じように、まちを歩く際に「あの建物は〇〇のように見えるな」「どうしてここは〇〇になっているんだろう？」と色々と感じるようになった。さらにそのことを子どもたちと話をすると、共感が得られ、自分の話が受け入れられている実感があった。子どもたちもこうした自己肯定感の高まりや仲間に受容されていることを感じているのではないだろうか。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>知函を作成することは、自分の感じたことをそのまま描けば良いので、絵が得意・不得意とか、上手い・下手とかに関係なく楽しむことができる良さがある。一方で、子どもたちは感じた事をどんどん表現したいので、その表現する場所の確保は課題がある。今後はデジタルコンテンツを活用するなどしてより多くの人と、より多くの情報を共有できるようにできるとよいと思う</p>